

令和6年度 学校関係者・自己評価

県立清武せいりゅう支援学校

◇ 学校の取組について、総合的に自己評価した結果です。

(A：良い B：概ねできている C：努力が必要 D：改善すべきである)

1 学校運営 学部、校務関連	評価
<p>① 学校経営方針や教育目標・努力事項を踏まえた取組ができているか。</p> <p>② 校務分掌部等の目標や努力事項を踏まえた実践に努めているか。</p> <p>③ 諸会議が検討、確認、共通理解の場となるよう努めたか(職員会、運営委員会、学部会、校務部会など)。</p> <p>④ 児童生徒の障がいの状態や発達段階等の共通理解を図って、職員間の連携を密にして組織的・協力的に取り組んだか。</p> <p>⑤ 災害や緊急時に対応する危機管理体制を整えているか。</p> <p>⑥ 働き方改革を全職員で取り組んでいるか。</p> <p>-----</p> <p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○職員アンケートでは、学校経営、学部校務部関連については約8割がA、B評価をしている。しかし、会議の精選に工夫が見られる。</p> <p>○働き方改革で、会議の精選に取り組んでいる。また、オンラインによる会議、保護者への資料配布等でペーパーレスを進めている。</p> <p>●防災対策は、地域の防災コーディネーターからのアドバイスを受けたり、近隣施設との協議を行っているが自助、共助と今後も地域との協議が必要である。</p> <p>●小中高連携については、教育課程の理解を深める必要がある。また年間計画、指導計画を活用し、学習の積み上げを組織的に行っていく必要がある。</p> <p>●一部の職員に業務の負担が偏らないように学級担任と校務分掌部の配置を工夫したりすることが課題である。</p> <p>●働き方改革では、勤務時間内に業務を終わらせることは不可能という意見がある。</p> <p>●職員の身体的負担が大きく、今後も支援機器等の導入を検討していく必要がある。</p> <p>※関係者から</p> <p>○災害について、センターや近隣施設の協力の必要性を感じた。地域との連携や、啓発を継続していくことが必要である。今後に期待したい</p>	<p>【関係者評価】</p> <p>B</p> <p>【自己評価】</p> <p>保護者 A</p> <p>職員 B</p>
2 教育活動や指導・支援	評価
<p>① 児童生徒の実態に基づいて個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成、共有し、教材等工夫し指導に活かしている。</p> <p>② 保護者と情報交換や共通理解を図って、連携・協力を努めたか。</p> <p>③ 児童生徒の人権を尊重した教育活動に努めている。</p> <p>④ 児童生徒の実態に応じて将来を見通した生活面の指導・支援を行っているか。</p> <p>⑤ 自立活動は、実態把握を基に、個に応じた適切な指導がなされているか。</p> <p>⑥ 児童生徒の自己理解・職業理解を図るための小・中・高一貫したキャリア教育に取り組んでいるか。</p> <p>⑦ 児童生徒の進路について、保護者や関係機関との連携をとっているか。</p> <p>⑩ 進路に関する情報収集や提供を行っているか</p> <p>-----</p> <p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○教育課程ごとに実施している各課程会、コース会や保護者と確認をした個別の指導計画を基に、学主事、主任を中心に効果的・効率的な学部運営に努めた。</p> <p>○年間指導計画や個別の指導計画及び各学部の教育課程については、継続して検討を行い課題解決に努</p>	<p>【関係者評価】</p> <p>C</p> <p>【自己評価】</p> <p>保護者 A</p> <p>職員 B</p>

<p>めた。</p> <p>○各学部の会議においては、各学級の児童生徒の健康状態や学習状況などについて情報を共有し、指導方法について話し合うことにより、各教科等の指導に活かした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主権者教育について、実態に応じて継続して行っていく必要性がある。 ●支援を行うにふさわしい身なりについての意見を保護者からいただいた。(身につける物、履き物など) ●学校職員によるリハビリの見学を積極的に毎年行ってほしい。 ●座位での活動ばかりでなく実態に合った自立活動など工夫してほしい。 <p>・親御さんの御苦勞を御理解いただき成長される子どもたちの小さな一歩を後押ししていただきたい。</p> <p>※関係者から</p> <p>○職員により指導・支援に差が見られる。一定のラインを保持できるように研鑽に努めてほしい。</p> <p>○児童生徒のセンターで行うリハビリを職員が必ず見学(研修)できるように学校が設定してほしい。</p> <p>○指導、支援を行うにあたって服装等には十分に気をつけてほしい。</p>	
<p>3 保健・安全</p> <p>① 児童生徒の健康状況について、保護者やこども療育センター及び保健室との連携を図り、健康管理や状態維持に務めたか</p> <p>② 清潔面、衛生面及び安全面に配慮して日々の指導を行うことができたか。</p> <p>③ 医療的ケアは看護師と連携して安全安心に実施されているか。</p> <p>④ ヒヤリハット事例について全職員で情報を共有し、再発防止や重大事故の予防に活かしているか。</p> <p>⑤ 施設・設備や教材・教具等の安全点検や安全な活用がなされているか。</p> <p>⑦ 学校危機管理マニュアルの整備・充実と活用を図り、緊急時や危機管理に備えているか。</p> <hr/> <p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○職員の評価は8割以上がB以上の評価であった。</p> <p>○感染症対策においては、マスクの取扱など変更を行った。職員は感染症対策の意識は高い。</p> <p>○地域の防災コーディネーターや6施設での協議、保護者間でのアンケートを行ったことで保護者、職員ともに意識の向上が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ヒヤリハット事案については報告書の提出を徹底する。また必ず全体で共有する。 ●スクールバス緊急対応訓練、避難訓練等を学校、福祉ゾーンで行っている。自助、共助が課題である。 ●施設も年数がたち老朽化が見られる。県と連携し改善を図っていく必要がある。 ●支援の項目でもあるが、安全に支援、介助を行うためにも身につける物などに注意が必要である。 <p>※関係者から</p> <p>○ヒヤリハットは必ず記録してほしい。またそれらに対して対応等の発信が必要である。また保護者、センターと連携し対応してほしい。</p> <p>○安全のためにも、職員は身につける物に気をつけてほしい。</p>	<p>評価</p> <p>【関係者評価】 B</p> <p>【自己評価】 保護者 B 職員 B</p>
<p>4 職員研修</p> <p>① 校内研究において、研究主題に沿ったグループ研究を深化させているか。</p> <p>② 専門性向上研修等の各種研修を指導や授業実践に活かすことができたか。</p> <p>④ 児童生徒の実態に即したICT機器や情報機器を活用した指導に取り組んでいるか。</p> <p>⑤ 様々な校内研修が、自らの専門性を高めるための研修になっていたか。</p> <hr/> <p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○今年度は校内研究において「肢体不自由の障がいの思い児童生徒における国語・算数(数学)の学びの充実を目指して」～せいりゅうヒントbook作成によるPDCAサイクルに基づいた授業改善～をテーマに取り組んだ。国語の学習からの生活場面での般化が見られ、児童生徒の主体性などの成果が見られた。課題として実態差に対応した教材・教具の工夫、一斉授業の展開の難しさなどがあげられている。次年度も継続して教科指導について研究を進めていく。</p> <p>○職員研修においてメンタルヘルスを行った。人との接し方や、考え方などを知る機会となった。</p>	<p>評価</p> <p>【関係者評価】 B</p> <p>【自己評価】 職員 B 保護者 B</p>

<p>●肢体不自由だけではなく、他の障がい種についても研修を継続して行う必要がある。</p> <p>※関係者から</p> <p>○肢体不自由児・者に対する身体介助等の研修を行っているのか、安心安全に子どもたちへの支援を行っているのか保護者へ情報発信を行っているべきである。そうすることで保護者も安心することができる。</p>	
<p>5 交流・共同学習・関係機関との連携</p>	<p>評価</p>
<p>① 学校間交流は、相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。</p> <p>② 居住地校交流は、保護者及び相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。</p> <p>③ こども療育センターと連携した指導・支援に努めたか。</p> <p>④ 学校ホームページの更新や活用に努めたか。</p> <p>⑤ 関係機関（教育、福祉、医療、行政等）との連携はとれているか。</p>	<p>【関係者評価】</p> <p>B</p> <p>【自己評価】</p> <p>保護者 B</p> <p>職員 B</p>
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○職員の評価では、6割がB以上の評価をしている。</p> <p>○交流の活動内容など、小・中・高それぞれに相手校の工夫により充実した活動ができている。</p> <p>○居住地校交流は、継続することで居住地校の理解も進み、地域で声をかけてもらうことも増えてきている。</p> <p>○文書配布をメールを活用することにした。併せてHP上にも掲載する。</p> <p>●学校間交流においては、予算上の問題もあり相手校が来校することが難しい。間接交流も含めて今後も継続していく。</p> <p>●居住地校交流の希望者が小・中学部ともに一桁で少ないため啓発が必要である。</p> <p>●居住地校交流は、継続していくことで理解も深まるが、初年度の際は丁寧に説明する必要がある。</p> <p>●情報発信が十分に行われていない。検討、工夫が必要である。</p> <p>※関係者から</p> <p>○各交流を見える化し啓発を行ってほしい。</p> <p>○間接交流に関しては全体像が見えない。今後改善が必要であり、交流校に行くことが大事である。</p> <p>○居住地校交流については、交流で何を目的とし、何を行うのかモデルケースを発信し啓発していただきたい。</p>	